



学校だより 銀杏

本校ホームページ [https:// https://www.fureai-cloud.jp/ine4j/](https://www.fureai-cloud.jp/ine4j/)に「カラー版」を掲載しています。

今月号の内容

- 副校長巻頭言 ○行事予定
- ユニセフ学習
- すまいるルームの紹介

絆を深める一年に

副校長 山下 正美

新しい学期が始まり、1 か月ほど経ちました。新しいクラスメイトや新しい環境に少しずつ慣れてきているでしょうか。その友だちとの関係を深めるために大切なこととは何でしょうか。

1つ目に、コミュニケーションを大切にすることが挙げられます。

友達との関係を深めるためには、まず相手とよく話すことが必要です。四中で大切にしている「あいさつ」もその一つです。生徒会も一緒になってのあいさつ運動で『あいさつは目を見て自分から』のスローガンも掲げられています。また、学校での出来事や趣味、好きなことについて話をすることもあるでしょう。授業では、話し合い活動を通して自分の考えを伝えたり、いろいろな人の考えを聞いたりし、議論する機会も設けられています。お互いのことをよく知ることで、友達との関係を深めていくことができます。



2つ目に、共通の活動に参加することです。

部活動や委員会活動、学校行事など、共通の活動に参加することで、自然と仲が深まります。一緒に目標に向かって頑張ることで、お互いに協力し合い、助け合う機会が増え、絆を深めることができるでしょう。今月末には体育大会が控えています。新しいクラスとなって、クラスのみんで一丸となって力を合わせる絶好の機会となります。一人一人の頑張りや努力はもちろん必要ですが、クラス全体が協力してはじめてすばらしい結果が出せると思います。

3つ目は、利他の心を持つことです。

利他の心とは、相手のことを思いやり、助ける気持ちのことです。自分は後回しにして、まず相手のためになることをすることです。人はともすると利己、自分の利益を優先しようという気持ちになりがちですが、利他の心をもっていれば、人間関係が悪くなることはありません。人と関わる時に、「相手はどう思っているのか」「こう言ったらどう思うのか」など、行動の前に考えることができると円滑な関係が築けるということです。



縁があって同じクラスになった仲間と、1年間でしっかり関係を深めていけることを期待しています。

そんな中でも、新しい環境で、疲れが出ている人もいるかもしれません。ゴールデンウィークの連休は部活動もあるかもしれませんが、少しでも休める機会を作ってリフレッシュしてください。また、何か心配事や気になることがあるときは、自分で抱え込もうとせず、周りの大人に相談することも大切です。担任、学年の先生、部活動の先生、SC(スクールカウンセラー)など、ぜひ声をかけてください。

ユニセフ学習について

教務部 荒井夏子

4月18日(金)は6時間目にユニセフ講演会が行われました。今年度は1学年のみの参加となりましたが、ユニセフの活動や「子どもの権利条約」を知るだけでなく、講師の方のお話を通して世界には大変な思いをしている子どもたちが今この瞬間にいると気づかされる貴重な機会となりました。また、講話では現地で使われている“水がめ”を持つ体験や、“蚊帳”に入る体験を代表生徒が行いました。“水がめ”の体験では、容器だけで2kg、水を入れると15kgになり、これを何時間もかけて運ぶと想像するととても大変なことだと感じていました。



“蚊帳”の体験では思っていたよりも“蚊帳”が狭く、早く出入りしないと虫が入ってしまいます。体験した生徒は少しでもほころびができると虫が入ってしまうと感じていました。

2つの体験を通して、快適ではない環境で暮らす人たちのことを想像することができました。日本という恵まれた環境で過ごすことができているからこそ、世界に目を向け、四中の伝統である「ユニセフ活動」の意義を改めて感じるきっかけとなる講演でした。

2年生は、昨年度行ったユニセフ学習の内容を発展させ、『すべての子どもに〇〇を』をテーマにユニセフ学習を行っています。今年度はESDの観点から、今日の世界情勢や生活の中で身近に感じる課題とSDGsの17の目標を結び付けて、テーマを設定しています。生徒たちは「すべての子どもが夢や希望をもつには何が大切なのだろう…」と、自分なりの答えを探求しながら調べ学習を行っています。

3年生では、これまでのユニセフ学習での学びを生かした修学旅行のテーマ設定を行う予定です。地域の課題を、社会全体の課題と結び付けて捉えられるよう、考える機会を作っていきます。また、12月のユニセフ・クリーン大作戦の募金活動の際に使用するポスターを、グループで協働し、作成します。ユニセフ学習で得た知識を、ポスターを通じて地域の方々へ発信します。



今年度も引き続き、校内・校外募金活動、ユニセフ・クリーン大作戦に加えて、各学年の総合的な学習において協働的・探究的な学習活動を行っていきます。活動の様子は学校だより、学年だよりを通じてお伝えします。また、学習で作成したポスター等は校内掲示を行います。学校にお越しの際、ご覧いただければ幸いです。

<令和7年度「ユニセフ学習」予定>

- 全校・生徒会：募金活動／ユニセフ・クリーン大作戦
- 1学年：ユニセフ講演会 子どもの権利条約学習（発表・掲示）
- 2学年：「すべての子どもに〇〇を」（発表・ポスターセッション・掲示）
- 3学年：ユニセフ募金ポスターづくり（掲示）

すまいるルームの紹介

特別支援教室専門員 内田 有樹夫

一人一人の個性を活かし、自己理解を深め、他者を尊重し、学習を自ら工夫し実践する力を身に付ける多様な学び方、学び場の一つとして特別支援教室〈すまいるルーム〉をご紹介します。

Q 〈すまいるルーム〉は何をすところ？

A-1〈すまいるルーム〉の目的

〈すまいるルーム〉の目的は、自分を知り、自分に合った学び方を身に付つけて、自分らしく生きる力を育むこと、そして、在籍学級で他の生徒と共に有意義に学校生活を送り、学習活動に前向きに取り組むことができるようになることを目指しています。

野球にたとえるなら、まず自分のポジションを見つけること。打者なのか、投手なのか、それとも守備の名手なのか。自分の得意なプレイスタイルを知ること、自分の力を発揮する準備が整います。そして試行錯誤しながら自分に合ったバットイングやピッチングの技術を身に付け、チャンスの場面で自分らしいプレーをし、チームとともに勝利を目指すものと言えます。

〈すまいるルーム〉では、ホームランを打つことがすべてではなく、自分らしい一打や守備が、チームにとってかけがえのないものにすることができることを学んでもらえたらと考えています。



自分の得意は？

A-2〈すまいるルーム〉の学習内容

そのために、『すまいるルームの4つの支援』、「学習の支援」「心と行動の支援」「キャリア発達の支援」「学習環境の支援」を踏まえて、「学習を支える力」、「学校生活を支える力」、「人間関係を築く力」、「心理的な安心感を育む力」の伸長を図る活動を行っています。



学校での学習では、まず、聞く活動や見る活動を中心に行われます。そして、聞いたもの、見たものを理解し、記憶して、書いたり、話したりします。つまり、見る力・聞く力といった「入力」、考えて理解し記憶する力といった「処理」、そして、書く力・話す力といった「出力」、そういった「入力・処理・出力の総和」として、授業活動やテストなどが行われます。

そのため、「学習を支える力」では、書く、話す、理解する、記憶する活動をしています。たとえば、『ビジョントレーニング』や『卓球』など注意力や記憶力、眼球運動などを意識した「見る活動」や短い話を聞いて「誰が何をしたか？」などに答える「聞く活動」を行っています。

また、「書く活動」では、言葉のまとまりを意識して文章を書く練習や「話す活動」ではゲーム形式で分かりやすく伝える練習などを行っています。

理解や記憶については、認知特性に応じた指導を行っています。直感やインスピレーションを使って理解する「同時処理優位タイプ」の子には、結論から伝え、「結論はこう。なぜなら、こういう理由があるから」と箇条書きのように簡潔に伝えたり、絵で示したりしています。

じっくりと腰を据えてスタートからコツコツと取り組む「継次処理優位タイプ」の子には、ゴールを見失いがちになるため、「今、理解しないといけないのはここだよ。」といった道筋をつける声掛けや順序性を意識した覚え方を行っています。



学びのプロセスを支える活動

「学校生活を支える力」では、整理整頓や持ち物、提出物の期限の把握の仕方、期日までに課題を完成させる計画の立て方などを学んでいます。

「人間関係を築く力」では、イラストの状況や表情から他者の気持ちや適切な言動や振る舞いを考える活動や感情を調整するアンガーマネジメント等も行っています。



学習準備を整える



“得意”を活かす

「心理的な安心感を育む力」としては、一人一人の好きや得意を活かした活動、ルールの構造化(分かりやすく視覚化して示すこと)や目標達成の見える化、次の活動や行事などの予告、また、スモールステップでの成功体験の積み重ねや出来て褒められた体験を増やし、安心を感じられる活動を行っています。

〈すまいるルーム〉は、教員と生徒との一対一の個別の指導を基本にしているため、生徒の声をしっかりと受け止め、安心して通うことのできる教室です。

Q 〈すまいるルーム〉はどんな人が関わっているの？

A 〈すまいるルーム〉の指導は、巡回指導教員が行います。稲城第三中学校が拠点校になり、巡回で指導に来られます。

今年度は、月曜日と木曜日の週二日、指導を行っています。

その他に、特別支援教室専門員は、教員、生徒、保護者のパイプ役として、連絡や調整を行っています。

特別支援教育コーディネーターは、特別支援教育の推進を行い、早期支援が行える連携体制作りを行っています。

巡回指導教員
加藤（下段左） 安部（下段右） 板倉（上段右）
専門員 内田（上段左）

Q 〈すまいるルーム〉はどうしたら入れるの？

A 学習や学校生活、人間関係について気になることがあれば、まずはお気軽に何でもご相談ください。面談や話し合いを通して、お子さんに合った学びの場として〈すまいるルーム〉についても一緒にご検討していけたらと思います。

ご利用までの流れは、お申込みをいただき、書類を作成し、稲城市教育委員会に申請し、判定委員会で利用の可否が決められます。〈すまいるルーム〉入室の機会は、3回あります。

申請の締め切りは、本年度10月からの〈すまいるルーム〉利用の場合には、①7月19日、来年度4月からの利用の場合には、②11月10日と③12月24日となります。

また、申請には、『発達検査』が必要になります。検査の予約から検査の実施、そして、検査結果が出るまでには、1か月以上かかることがありますので、お子さんの発達などでお悩みやご不安がありましたら、お早めにご相談いただけたらと思います。入室だけでなく、子育てやお子さんへの配慮などについてご相談のある方は、学級担任や特別支援教育コーディネーター、養護教員にご相談ください。

5月の主な行事予定

日	曜	主な行事	日	曜	主な行事
7	水	稲教研	20	火	全校朝礼 耳鼻科検診
8	木	専門委員会	21	水	心臓検診(1)
9	金	安全指導 中央委員会 尿検査1次	27	火	学年朝礼
10	土	土曜授業 熱中症防止講座 部活動保護者会	28	水	体育大会予行
13	火	生徒会朝礼	29	木	体育大会予行予備日
16	金	避難訓練	30	金	体育大会準備
19	月	教育実習始 体育大会取組開始(特別時間割)	31	土	体育大会